

＜再編の基本方針＞

(第1次方針) (H25.4.26教育委員会)

- ▼児童生徒の生命・安全を守るため、津波被害に対処する小中学校の防災対策を推進します。
- ▼適正規模・適正配置については、「小学校は6学級～18学級を基本とし、学校全体の児童数120人以上（1学級平均20人以上）、中学校は6学級～18学級を基本とし、学校全体の生徒数120人以上（1学級平均20人以上）を適正規模とし、包含する小学校を少なくとも2校以上とする」ことを基本とします。
- ▼小中学校の配置については、地域からの意見を十分に尊重し、進めます。

(1) 防災対策（津波被害への対応）

平成24年に発表された「南海トラフ巨大地震」による震度・津波高予測で、田原市は震度7による地震動と津波の襲来が予測されていることから、特に被害想定の高い堀切小及びその周辺地域を対象地域とします。

(2) 適正規模・適正配置

人口減少、少子化を背景に、田原市の児童生徒数の減少は歯止めがかからない状況になっています。

平成21年度に、全校児童生徒数120人未満の学校を小規模校と位置づけ適正化の対象としています。特に、伊良湖小は平成27年度の3、4年生から複式学級になる見込みとなっていました。

(H27.4見込)

対象小学校	六連(75)、大草(88)、田原南部(67)、高松(90)、若戸(77)、和地(57)、堀切(85)、伊良湖(35)、亀山(76)、清田(100)
対象中学校	野田(92)、泉(110)、伊良湖岬(115)

(3) 対応方針

再編にあたっては、地域の意向や地域性を勘案し、※1【緊急地域】（堀切小、伊良湖小、和地小、伊良湖岬中）、※2【先行地域】（野田中、六連小）、※3【検討地域】（大草小、田原南部小、高松小、若戸小、亀山小、清田小、泉中）に3区分し、段階的に進めることとしました。

また、小中学校の再編により遠距離通学（小学校で概ね4km、中学校で概ね6kmを超える場合）となる児童生徒の通学手段を確保するため、路線バス等の通学費への支援、スクールバスの運行等による通学支援を行います。

※1【緊急地域】：地震津波の被害想定の高い堀切小・複式学級回避のための伊良湖小とその周辺の和地小及び伊良湖岬中で再編を早急に取組む校区

※2【先行地域】：学校を考える会の開催など、学校再編協議の動きが進んでいる校区

※3【検討地域】：児童生徒数120人未満で上記以外の校区

【伊良湖岬中について】

- (1) 伊良湖岬中の再編については、地元 3 校区（和地、堀切、伊良湖）で話し合いが持たれる一方、平成 25 年 7 月に渥美地域 8 校区会長の連名で、「岬中学校の再編について、渥美地域の校区で協議の場を設けたい」との要望書が提出されました。
- (2) 1 年後の平成 26 年 6 月に渥美地域校区総代会会長名で、「岬中学校の移転時期及び移転先は岬 3 校区の意見を尊重し判断してほしい」と報告が出されました。
- (3) この 8 校区からの報告（平成 26 年 6 月）と統合準備委員会（岬 3 校区）での議論（平成 26 年 6 月～7 月）を踏まえ、平成 26 年 7 月に教育委員会として、伊良湖岬中学校と伊良湖岬小学校について「今後の考え方」を示しました。

＜今後の考え方＞

- ・新設の伊良湖岬小学校は、伊良湖岬中学校跡地に新校舎を建設し、平成 32 年度に和地から移転する。
- ・伊良湖岬中学校は平成 30 年 4 月に他校へ統合する。
- ・統合先は平成 27 年度末までに決定する。
（統合先案／福江中、赤羽根中、福江中又は赤羽根中）

【泉中について】

- (1) 平成 25 年 8 月に「泉校区学校を考える会」が発足しました。これまでに 3 回会議を開催し（平成 26 年 11 月現在）、中学校再編について協議を進めています。また泉校区として、校区全戸にアンケート調査を行い（平成 26 年 2 月）、中学校再編についての意向の把握を試みています。
- (2) 平成 26 年 7 月に教育委員会は泉中学校再編について、泉保育園・泉小・泉中の保護者から直接、意見や考え方を聞く意見交換会をそれぞれ開催しました。そこでは「統合を進めて欲しい」という意見がほとんどでした。統合先については、赤羽根中と統合の意見が概ね半数を超え、他に福江中、田原中と統合したい等の意見がありました。

○泉校区での保護者の主な意見（泉保育園・泉小・泉中）

- ・中学校統合には賛成である。
- ・統合すればクラス替えができる、競争心や向上心が育まれる。
- ・統合の時期は伊良湖岬中と同じタイミングで考えるべきである。